

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第4週〔1月25日～1月31日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
 E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

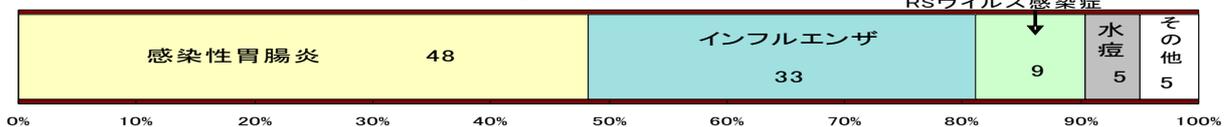
県内情報

○ 患者情報総評

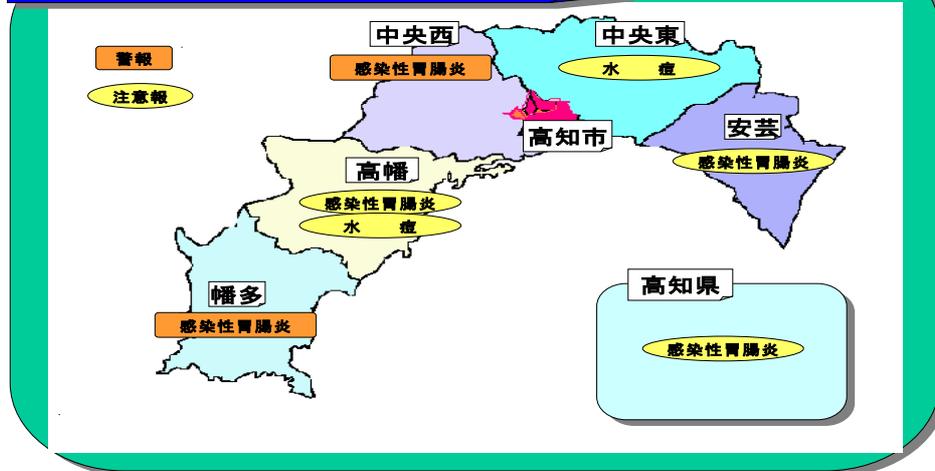
注意報発令疾患：感染性胃腸炎

- 週を通して安定した天気が続いていたが、日曜日には雨となり日中の気温は上がらなかった。
- 感染性胃腸炎（幡多：警報，中央西：注意報→警報，高幡：注意報→注意報，安芸：警報→注意報）は安芸を除く地域で増加し，総数は前週の約1.4倍増となり注意報値を超した。
- インフルエンザは全ての地域で減少し，県全体でも注意報値を下回った。
- 水痘（高幡：注意報，中央東：注意報）は安芸を除く地域で増加または横ばいとなり，総数は前週の約2.3倍に増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は地域毎には増減がみられるが，総数は横ばいであった。

上位疾患構成図



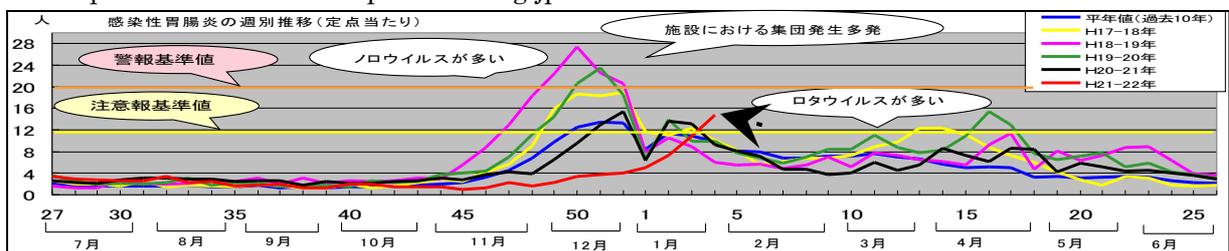
地域別感染症注意報・警報発生状況 第4報（2010年1月25日～2010年1月31日）



感染性胃腸炎：今週14.77（注意報値：12.00 警報値：20.00）

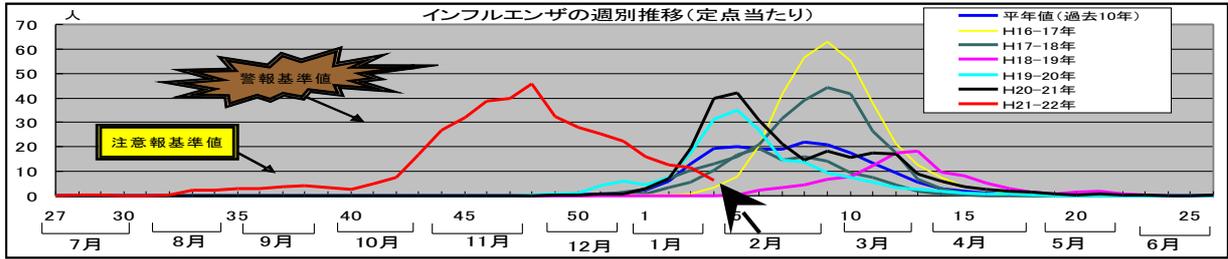
地域毎にみると，幡多と中央西では警報値を超え，高幡と安芸では注意報値を超えている。今週は中央西1件，高幡1件，幡多2件の合計4件のNorovirusによる集団感染が確認された。また，搬入された検体からもNorovirus GIIが2件検出されており，今後も引き続き注意が必要である。予防策としては，帰宅時や食事前等の十分な手洗いとうがいが必要である。その他ノロウイルス対策として「高知県ノロウイルス対策マニュアル」が下記のホームページに掲載されているので，参考にして頂きたい。

<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/kansenshou/noro.html>



インフルエンザ：今週6.21（注意報値：10.00 警報値：30.00）

総数は前週の約54%に減少し、注意報値を下回った。このまま減少を続けるのか、再び増加傾向となるのか注目されるが、例年であればインフルエンザの本格的な流行シーズンであり、引き続き注意が必要である。施設別発生状況については、1月24日～1月30日の1週間で、患者数100名、3保育所で休園、10小学校で学校・学年・学級閉鎖の措置が取られている。



○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
4	感染性胃腸炎	7歳男	中央東	<i>Campylobacter jejuni</i>
3	感染性胃腸炎	3歳女	高幡	Rotavirus A群
3	感染性胃腸炎	2歳女	高幡	Adenovirus 40/41
4	感染性胃腸炎	1歳男	高知市	Norovirus GII
4	感染性胃腸炎	1歳男	高幡	Norovirus GII
4	感染性胃腸炎	5歳男	高幡	Adenovirus 40/41

インフルエンザ（Influenza virus AH1pdmのみ）が23件検出された。

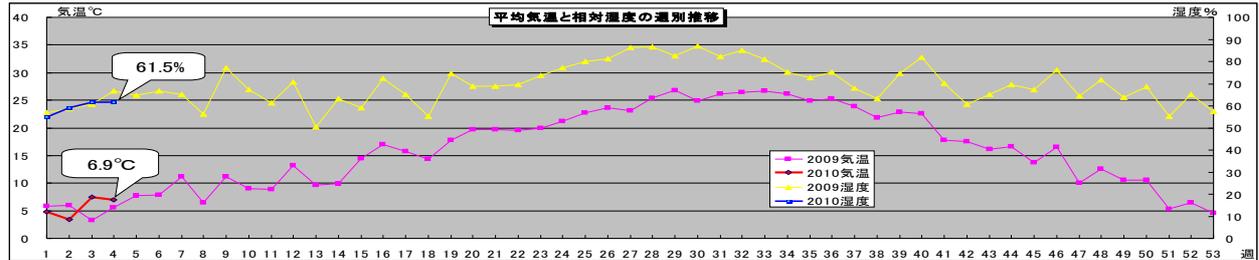
地域	年齢区分					総計
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	40～49歳	
高知市	1	1	1	1		4
高幡	2	10	6		1	19
総計	3	11	7	1	1	23

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 7例（今年13例）

（35歳女，86歳男）《中央東》（79，86歳男）《幡多》（82，84歳女）《高知市》
（84歳女）《須崎》

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《幡多けんみん病院小児科》：インフルエンザの4例は全てA型陽性
 《木俵病院小児科》：インフルエンザの9例は全てA型陽性
 《さたけ小児科》：インフルエンザの14例中10例はA型陽性，4例は臨床診断
 ノロウイルスによると思われる感染性胃腸炎が84名と激増
 《幡多けんみん病院内科》：インフルエンザの5例は全てA型陽性
 《松谷内科》：インフルエンザの1例は予防接種歴なし A群溶血性レンサ球菌感染症 1例（8歳男）

高幡：

《もりはた小児科》：インフルエンザの14例は全てA型陽性，うち1例は予防接種歴あり
 《須崎くろしお病院内科》：インフルエンザの2例はA型陽性
 《くぼかわ病院内科》：インフルエンザの5例は全てA型陽性

中央西：

《石黒小児科》：インフルエンザの9例は全てA型陽性，うち3例は予防接種歴あり
 《くぼたこどもクリニック》：インフルエンザの10例は全てA型陽性，うち4例は予防接種歴あり
 感染性胃腸炎の2例（2歳女，31歳男）は土佐市，1例（3歳男）は須崎市

《土佐市民病院内科》：インフルエンザの7例は全てA型陽性

高知市：

《細木病院小児科》：インフルエンザの9例中1例（12歳男）は臨床診断

《福井小児科・内科》：インフルエンザの7例は全てA型陽性

《三愛病院小児科》：帯状疱疹 1例（11歳女） マイコプラズマ肺炎 1例（12歳女）

《けら小児科・アレルギー科》：インフルエンザの31例は全てA型陽性，うち4例は予防接種歴あり

《依岡内科》：インフルエンザの5例は全てA型陽性，うち1例は予防接種歴あり

《高知医療センター小児科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性，予防接種歴なし

《高知赤十字病院内科》：インフルエンザの4例は全てA型陽性

《近森病院内科》：インフルエンザの15例中10例はA型陽性，予防接種歴ありは2例，なしは5例

《高知医療センター内科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性，予防接種歴なし

《町田病院》：流行性角結膜炎の1例はアデノウイルス陽性

中央東：

《吉本小児科皮膚科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性

《あけぼの小児クリニック》：インフルエンザの9例は全てA型陽性

《野市中央病院小児科》：インフルエンザの3例中2例はA型陽性，1例はA・B型陽性，うち2例は季節性ワクチン接種歴あり

《早明浦病院小児科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性，うち2例は予防接種歴あり
保育園でRSウイルス感染症が流行中

《いちほら内科小児科》：インフルエンザの6例は全てA型陽性

《野市中央病院内科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性

安芸：

《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの14例中8例はA型陽性

《田野病院小児科》：インフルエンザの4例は全てA型陽性

《室戸中央病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

全国情報第2週（1/11～1/17）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核194例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症16例（有症者8例、うちHUSなし）

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、マラリア1例、ライム病1例、レジオネラ症7例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群13例（AIDS 5例、無症候7例）、梅毒6例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、麻しん5例

報告遅れ：細菌性赤痢2例、エキノкокクス症1例、ライム病1例、レジオネラ症1例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆インフルエンザ

2010年第2週のインフルエンザの定点当たり報告数は8.13（報告数39,053）となり、2009年第49週以降減少が続いている。都道府県別では沖縄県（49.98）、宮崎県（16.29）、静岡県（16.02）、福井県（15.41）、鹿児島県（13.69）、愛媛県（12.97）、高知県（12.71）、愛知県（12.30）、岐阜県（11.76）、滋賀県（11.12）の順となっている。定点当たり報告数は、40都道府県では前週よりも減少がみられ、10.00を超えているのは14県となった。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数を推計すると約48万人（暫定値）となり、第28週以降これまでの累積の推計受診患者数は約1,923万人（暫定値）となった。性別では男性約996万人（51.7%）、女性約929万人（48.3%）であり、年齢群別では5～9歳約488万人（25.4%）、10～14歳約454万人（23.6%）、15～19歳約268万人（14.0%）、0～4歳約211万人（11.0%）、20～29歳約200万人（10.4%）、30～39歳約140万人（7.3%）の順となっている。5～9歳、10～14歳の年齢群は増加に転じたが、20代は減少し、他の年齢群も減少かまたは横ばいであった。

但し、推計受診患者数は、受診患者数の多い医療機関がより多く選定されている傾向があることなどから、真の受診患者数より過大であると考えられている。この点を踏まえ、推計受診患者数についてはあくまで参考値として理解していく必要がある。

日本で新型インフルエンザウイルスAH1pdmが検出された2009年第19週以降2010年第2週までに、全国の地方衛生研究所から25,293件のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、そのうちAH1pdmは24,239件（95.83%）を占めている。また、特に患者報告数が増加し始めた2009年第28週以降では、2010年第2週までに23,040件のインフルエンザウイルスの検出が報告され、AH1亜型（Aソ連型）18件（0.08%）、AH3亜型（A香港型）135件（0.59%）、B型6件（0.03%）、AH1pdm（新型インフルエンザウイルス）22,881件（99.31%）とインフルエンザウイルスの検出報告数の大半をAH1pdmが占めており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものであると推定される状態が続いている。

既にインフルエンザの流行に適した時季に入っており、季節性も含めたインフルエンザの発生動向には警戒が必要であると思われる。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(3週)	高知県(4週末累計) H22/1/4~H22/1/31
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	20	46	135	29	23	45	298 (6.21)	557 (11.60)	43,436 (9.03)	2,241 (46.69)
	咽頭結膜熱									411 (0.14)	1 (0.03)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	17			2	23 (0.77)	23 (0.77)	4,027 (1.33)	96 (3.20)
	感染性胃腸炎	33	59	115	66	35	135	443 (14.77)	324 (10.80)	41,927 (13.81)	1,140 (38.00)
	水痘		15	17	2	7	1	42 (1.40)	18 (0.60)	3,873 (1.28)	107 (3.57)
	手足口病		2	1				3 (0.10)	1 (0.03)	390 (0.13)	7 (0.23)
	伝染性紅斑									278 (0.09)	5 (0.17)
	突発性発疹		2	3		2		7 (0.23)	10 (0.33)	1,703 (0.56)	34 (1.13)
	百日咳									68 (0.02)	1 (0.03)
	ヘルパンギーナ			2	1			3 (0.10)	1 (0.03)	74 (0.02)	7 (0.23)
	流行性耳下腺炎		1	1			1	3 (0.10)	7 (0.23)	1,823 (0.60)	22 (0.73)
	RSウイルス感染症	4	16	56		5	3	84 (2.80)	60 (2.00)	3,931 (1.30)	208 (6.93)
アフター性口内炎		1	1	1		1	4 (0.13)	3 (0.10)		12 (0.40)	
眼科	急性出血性結膜炎									6 (0.01)	
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	307 (0.45)	2 (0.67)
基幹	細菌性髄膜炎									10 (0.02)	
	無菌性髄膜炎									3 (0.01)	
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.14)	1 (0.14)	138 (0.30)	2 (0.29)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									10 (0.02)	1 (0.14)
計 (小児科定点当たり人数)	57 (23.50)	146 (18.47)	350 (27.80)	99 (29.13)	73 (30.75)	187 (34.03)	912 (26.61)				
前週 (小児科定点当たり人数)	92 (37.25)	135 (15.75)	385 (28.48)	124 (33.33)	104 (35.25)	166 (25.40)		1,006 (26.50)	102,415		3,886 (101.35)

定点当たり 第4週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週
			中央東	高知市	中央西				
内科・小児科	インフルエンザ	5.00	4.18	8.44	5.80	5.75	5.63	6.21	11.60
	咽頭結膜熱								
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	1.55			0.40	0.77	0.77
	感染性胃腸炎	16.50	8.43	10.45	22.00	17.50	27.00	14.77	10.80
	水痘		2.14	1.55	0.67	3.50	0.20	1.40	0.60
	手足口病		0.29	0.09				0.10	0.03
	伝染性紅斑								
	突発性発疹		0.29	0.27		1.00		0.23	0.33
	百日咳								
	ヘルパンギーナ			0.18	0.33			0.10	0.03
	流行性耳下腺炎		0.14	0.09		0.50		0.10	0.23
	RSウイルス感染症	2.00	2.29	5.09		2.50	0.60	2.80	2.00
アフター性口内炎		0.14	0.09	0.33		0.20	0.13	0.10	
眼科	急性出血性結膜炎								
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33
基幹	細菌性髄膜炎								
	無菌性髄膜炎								
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14	0.14
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								
計 (小児科定点当たり人数)	23.50	18.47	27.80	29.13	30.75	34.03	26.61		
前週 (小児科定点当たり人数)	37.25	15.75	28.48	33.33	35.25	25.40		26.50	

2010年週報推移(定点当たり)

